

Note PC の扱いについて (2011/04/02)

Ver. 1.6b

栗野 俊一

kurino@math.cst.nihon-u.ac.jp

<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/index.html>

2011 年 4 月 2 日

1 はじめに

新入、編入、転科、転部生の皆さん、数学科によろこそ。

数学科では、本学科に在籍される皆さんの学習や生活に役立つよう、一人一台の Note-PC (以下、単に PC) を貸与しています。

この PC は、今後、皆さんが、本学科に在籍している間¹、皆さん個人の占有物として貸与されます²。

この PC の使用用途は、主に大学での講義での実習での利用を想定していますが、その他どのように利用するか³は、本人の工夫次第です。是非、色々と活用してください。

ただし、貸与期間中、この PC の管理責任もまた、皆さん本人に委ねられています。きちんと管理してください⁴。貸与期間に、貸与した PC に関して生じるいかなるトラブルにも、学科は関知しません⁵。

2 PC を受け取って帰ったら

2.1 保証書

箱には、保証書が貼り付けてあります。この保証書は、購入して 1 年以内に故障が生じて、メーカーに修理依頼をする場合に必要なものなので、大切に保管しておいてください。

¹卒業、転科、転部、退学等、あるいはその他の理由により、数学科を離れる時点で、返却して頂きます。逆に、進学等で、引続き本学部の大学院の数学研究科 (あるいは、情報学研究科) に在籍する場合は、そのまま貸与期間が延長されます。

²ので、早速、名前シールを張りましょう;-)。カバーを掛けたり、飾りをつけたりして、一目で自分の物だと分るようにした方がよいと思います。

³レポート作成に利用するとか、Internet 端末にするとか、日記帳の代わりに使うとか...。もちろん、枕に利用しても構いません。個人的には、ちょっと硬過ぎるような気がしないでもありませんが...

⁴特に、Note-PC にインストールするソフトウェアは、きちんとライセンスのあるものだけにしてください。また、インストールされているソフトウェアが適正かどうかを判定するために、Note-PC の調査を行いますので、その場合は、指示に従ってください。

⁵したがって、貸与期間中に生じた、PC の故障や、盗難等、PC に何らかの損害が生じた場合、その復帰 (故障の修理や、弁償等) は、皆さん自身の責任で行っていただく事になります。ただし、トラブル時における相談には乗りますので、何かあった場合は、ぜひ、ご連絡ください。

2.2 Windows(Microsoft) Update

もし、自宅や下宿から、Internet が利用できる場合には、Windows Update の実行を強くお勧めします。これは、恒常的に確認をし、常に最新のものにしておきましょう。

また、残念ながら自宅や下宿からは、利用できなかったり、あるいは利用できても、回線速度が遅い場合

は、大学の Network を利用⁶して、放課後や昼休み等の長い休み時間⁷に行うと良いでしょう。

2.3 異常に気が付いたら

基本は、学科に連絡する事です。連絡先は、この資料の最後に記載されています。

3 「コンピュータ概論」を受講する方へ

「コンピュータ概論」(一年次配当科目、以下、単に概論)では、基本的に、毎時間、この PC を利用します。

3.1 初日に行う事

3.1.1 Note-PC のセットアップは全員参加

「コンピュータ概論」の初日は、Note-PC のセットアップ作業をします。したがって、「コンピュータ概論」の受講予定がない学生であっても、初日だけは必ず参加してください。

3.1.2 内容物の確認

PC を自宅に、持ち帰ったら、早速内容を確認してください。

内容物が全部揃っている事を確認してください。

万が一、揃っていない場合は、直に申し出てください。

3.1.3 電源 on

内容物が確認できたら、次に行う事は、電源ケーブルを接続し、電源を入れる事です。

電源が入らない等の異状がある場合も申し出ましょう。

3.2 持ち帰り時

PC を無くさないように注意してください。

過去に何件か、受け取った当日の帰りの電車で、PC を紛失した例があります。できれば、棚などに載せず、足元に置くか、膝の上しっかりと抱えて帰りましょう。

⁶大学の Network を利用して、Internet を利用する方法は、コンピュータ概論の時間に説明されます。

⁷講義時間内に行う事はお勧めしません。これを行っていると、講義に集中できない可能性がありますし、また、多くの方が集中して行くと、Network が混んでしまい、講義そのものに支障がでてしまう可能性もあります。

3.3 二週目以降

二週目以降も、毎回 PC が必要です。

PC を必ず、持参してください、必要なものは、PC 本体と、電源 (アダプタとケーブル)、それから、「パスワード通知カード」が必要です。逆に、マニュアルや箱、CD-ROM 等は不要です。

PC は、衝撃や圧力に弱い⁸ので、タオルやクッションなどに包んだ上で、作りのしっかりした鞆に入れて持ち運ぶとよいでしょう。また、教室で、コンセントが利用できるという保証はない (コンピュータ概論の教室は大丈夫です) ので、余分に、延長コードや電源タップを用意したり、あるいは、コンセントが利用できなくても困らないように、自宅で、十分に充電をしておきましょう。

4 ソフトウェアの Install 状況調査

理工学部では、ソフトウェアの不正利用を防止するため、定期的に、大学で購入した PC でのソフトウェアの Install 状況を確認するための調査を行います。皆さんに貸与する PC も、当然、この対象となるわけです。

従って、以下の点を予めご了承ください。

- ソフトウェアの Install 状況調査が行われる場合 (何時、どのような形で行うかは、また、ご連絡致します..) には、ご参加下さい。
- また、調査結果によっては、貸与する PC に Install されているソフトウェアに関して、個人で Install したソフトウェアのライセンス情報の提示をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。
- その他、大学から PC に関する情報調査に関する要求がある場合にも、ご参加を願ひ致します。

なお、後になってトラブルが生じない様に以下の点に関してご配慮願えればと思います。

- ライセンス違反となるようなソフトウェアの Install はしないでください。
 - 不正 Copy 等で入手⁹したソフトウェアを Install しないでください。
 - 購入したソフトウェアであっても、その PC 用に購入したもの以外¹⁰は、Install しないでください。
- オープンソフト¹¹を利用しましょう。

ライセンスの条件が穏かで、(法律的に..) 安心して利用できるソフトウェア¹²を利用すれば、PC を効率よく利用できます。

⁸家を出る前は、正常だったのに、満員電車でぎゅうぎゅうと押されながら、大学に来て、講義で利用しようとしたら、すでに壊れていたという例も数件あります。

⁹過去の例では、友人や先輩の使っているソフトが良いので、「それを気軽に..」という状況も多々あるようですが、そのような場合は、最悪 (借り貸し、あるいは、Copy した/された人の..) 双方に責任が生じる可能性がありますので、よりよい友人関係を維持するためにも、そのような事はさけるようにしましょう。

¹⁰例えば、既に、自宅に PC があり、そこに Install されているソフトウェアは、その PC 用に購入したものです。そのソフトウェアが、他の PC に Install してよいかどうかは、そのソフトウェアのライセンスによって異なりますので、既に購入したものだからといって、安易に他の PC に Install して利用してよいかどうかは、確認する必要があります。

¹¹他にも「フリーウェア」などと呼ばれる場合もありますが、要するに、Internet 経由等で、誰でも自由に入手でき、どの PC に Install して、無料で、利用しても構わないようなライセンス (ライセンスがないのではなく、そのような自由なライセンスになっている..) で公開されているソフトの一般的な名称。

¹²どのようなソフトがあるのかは、コンピュータ概論などで質問しましょう。もちろん、担当者に相談するという手もあります。

- 貸与した PC で、どうしても、商用のソフトを利用したい場合は、その PC 用に専用に購入する¹³事を強くお勧めします。

5 いわゆる「ファイル共有 / 交換ソフト」の利用制限について

理工学部では、俗に「ファイル共有 / 交換ソフト」と呼ばれているソフトの利用を、予め申請し登録した利用者を除き、禁止しています。

もし、どうしても利用したい場合は、事前にご相談ください。

一般には、そのような類のソフトは、貸与する PC には、Install しない¹⁴事を強くお勧めします。

6 FAQ

6.1 既に自分の PC をもっている人

すでに、自分の PC をもっていて、そちらの方が便利と考える場合は、大学で貸与した PC を利用する必要はありません。

ただし、大学の講義や演習では、本人が学科から貸与した PC を利用する事を前提にします¹⁵。したがって、それ以外の PC の利用による差異に関しては、考慮しません。その差異を埋める責任は、他の PC を利用する事を選んだ本人にあります。

6.2 返却するもの

返却する義務があるのは、PC 本体と電源だけです。マニュアルや附属 CD、箱等は返却の義務はありません¹⁶。

6.3 改良

PC に自分で購入したソフトを install したり、メモリ増設など、機能を拡張したりするのは自由です¹⁷。

¹³既に、購入済のソフトを、貸与した PC に Install する場合、ライセンスによっては無料で可能なものもありますので、「常に」という事はありませんが、何れにせよ、ライセンスの内容を十分に理解して行うようにしてください。

¹⁴ファイル共有 / 交換ソフトを、Install する事や、それを (合法的な目的に) 利用する事そのものが、問題になることはないのですが、一般に、その使用目的が、ライセンスが確認できないような安心できない情報の入手に利用されたり、場合によっては、「利用者の意図とは無関係に、不正行為に加担してしまう (共犯になる..)」事がありますので、ご注意ください。

¹⁵例えば、講義の中で、Mathematica というソフトを利用を予定しています。これは、有料のソフトなのですが、理工学部で貸与する PC には、理工学部で予め購入した License を用いて、このソフトを無料で Install できます。

しかし、個人の PC には、それができないので、もし、個人の PC で、Mathematica を利用したい場合は、各自で、Mathematica を購入する必要がでできます。

¹⁶マニュアルには、気が付いた事などをどんどん書き込むとよいと思います。箱は、邪魔なら捨ててしまっても構いませんが、修理の時には、PC を宅急便等で送るために、代りに何かの箱が必要になるという事は、予め注意しておきます。

¹⁷が、その結果に関して自分で責任を。また、卒業時に返さねばならない事も忘れずに。

7 メーカーに修理を出す場合の注意

7.1 PC が故障したら

PCの動作が不良の場合、その原因は、大きく次の二つの可能性があります。

- Hardware 故障:見た目でも壊れている事が解る状態
 - キーボードのキーが取れてしまった。
 - 液晶の画面にひびが入っていて表示が変になっている。
 - イジェクトボタンを押しても、CD/DVD が出てこない。
 - 電源が入らない。
 - 変な音がする。
- Software 故障:見かけは異常がないようだが、動作が変と思われる状態
 - 電源は入るが、何時もと違う表示になる。
 - Web を利用している時に自分が意図しないページが表示される。
 - 以前より動作が明らかに遅くなった。
 - コンピュータウイルスに感染しているようだ...

そこで、PCに問題がある場合は、その原因が、まず、HardwareによるものかSoftwareによるものかを判断し、それぞれの状況に合せた、適切な処理をする必要があります。

端的に言えば、Hardwareによるものは、メーカーにお願いをして修理をしないかぎり原則としては、どうにもなりません¹⁸

一方、Softwareが原因の場合は、一般的には、自分で対処可能です¹⁹。

もちろん、最初の内は、自分で、この区別をしたり、あるいは、softwareの問題でも、自力で解決できない可能性がありますので、それに関しては担当者に相談してください。

HardwareなのかSoftwareなのかの切り分けと、Softwareの場合の対処方法に関しては、相談に応じます。しかし、Hardwareが原因の場合は、原則としてメーカーに自分で出す必要がある事に注意してください。

7.2 メーカーに修理を依頼する場合

7.2.1 修理に必要なもの

修理に必要なものは、一般に次のものです。

- 壊れたもの(まあ、普通は本体)
- 保証書
- 箱(PC本体を郵送する場合には、運搬中に壊れないように、箱が必要です。はっきりいって箱は、この故障のためだけに必要ともいえます)。

¹⁸特殊な場合は、自分で部品を購入して、修理可能な場合があります。保証が切れた2年生以降では、これも検討する余地があるでしょう。この場合の方が、安価にできる可能性があります。

¹⁹最悪の場合でも、最初にPCを受け取った時の最初の状態に戻す事が可能です。もちろん、この場合、自分で作った、レポートや、他人と交換したe-mailなどが失われてしまい、これはこれで、大変悲しいのですが...

7.2.2 修理依頼の手順

基本は、同梱されているマニュアルを参照しそれに従う。

- Tag ナンバーを確認する (本体の後に貼られているシールを確認)
- テクニカルサポートに連絡する。
- 商品が貸与された経緯を説明する
 - 日本大学が一括購入したものを学生に配布したものである。
 - このために Tag 情報と現在所有している自分の名前が異なる。
 - 念の為、その時に、大学側の担当者の名前と連絡先 (この資料の後に記載) も伝える。
 - 本体をテクニカルサポートに郵送する。

貸与している PC が、大学所有になっているので、「修理時に、皆さんに渡された経緯を説明する必要がある」という点が、普通と異なるわけです。

8 連絡先

PC の調子が悪いと思ったら、とりあえず、担当者まで連絡をください。

担当者 栗野俊一 (くりのしゅんいち)

e-mail kurino@math.cst.nihon-u.ac.jp²⁰

URL <http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/index.html>^{21 22}

Tel. 03-3259-0864²³

Lab. 駿河台校舎 8 号館 2 階 823 号室内 (823-A)

情報センター 船橋校舎 12 号館 1 階²⁴

²⁰携帯から、e-mail を送ってくる人は多いのですが、最近、色々な理由で、こちらからの返事は、携帯に届かないようです。もし、e-mail で連絡するならば、船橋校舎の 12 号館地下の演習室の施設を利用して、携帯でない e-mail を利用の方が便利です。

²¹<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino/index.html>

²²この資料の Page もあります。資料は、随時 update される可能性があるため、是非、時々参照してください。

²³僕を電話で捕まえるのであれば、夜が望ましいと思います。特に水曜日と、土曜日の夜が捕まえやすいでしょう。

²⁴月曜日の午後は、情報センターにいます。